

とうかいまちづくり大学が始まりました！

～ 第1回 とうかいまちづくり大学 開催レポート ～

2021年11月18日(木)18時半～20時半、東海市立市民活動センターで「とうかいまちづくり大学」を開催しました。この会議は、今後10年間のまちづくりの方針を定める総合計画づくりの一環で開催するものです。東海市にゆかりのある大学生が東海市の未来のまちづくりについて、若者の視点で自由に話し合い、東海市のまちづくりについて提案することを目的としています。2021年11月～2022年3月まで計3回開催する予定です。以下、第1回の会議の様子をご紹介します。

■チームワークを高める新聞並び替えゲーム

今回のとうかいまちづくり大学は、日本福祉大学や星城大学の学生をはじめ、総勢約40名の学生が参加しました。まずは、他大学の仲間とのお挨拶も含め、チームワークを高めるために「新聞並び替えゲーム」をしました。新聞並び替えゲームとは、タテ・ヨコ・ページがバラバラになった新聞をチームみんなで並び替えるという単純なゲームですが、チーム力が問われます。6つのチームのうち、最も早く並び替えたチームからは、「チームみんなで協力できた」といった声が聞こえてきました。

■東海市の未来予測「あなたと東海市の未来は？」



東海市が将来どうなっていくかを予測する「未来カルテ」というデータをもとに、一般社団法人地域問題研究所から概ね20年先を見据えた社会動向や東海市の状況について参加者に情報提供がありました。東海市も全国同様に高齢化が進む等ネガティブに聞こえるようなお話もありましたが、同時に「脅しではなく、“気づき”のためのカルテ」であるということも参加者に伝えられました。

■グループワーク①「こんなまちに暮らしたい！働きたい！」

グループワーク①では、参加者自身が「私のミライカード」を記入し、10年後の自分の姿、暮らしたいまち、働きたいまちを考え、チーム内で意見を交わしました。

参加者からは、「東海市で経営者になって両親と楽しく過ごしている」という声や、「東海市で時間に縛られない仕事をしている」というように東海市での将来の姿を描く学生も多く見られました。

また、「カナダで観光業に携わっている」、「ベトナムで日本語の先生をしている」といったグローバルに活躍する将来を描く学生もいました。



■グループワーク①の成果発表

成果発表では、チーム全員の意見を合わせ、「暮らしたいまち」、「働きたいまち」の重要な要素について話し合った結果を共有しました。各チームからは、「人にやさしいまち」、「友達と集まりやすいまち」、「交通の便がいいまち」といったキーワードが出されたほか、「全世代住みたいランキング1位」、「安心・安全誰でもWelcome! なまち」といったキャッチコピーを考える想像力あふれるチームもありました。

■グループワーク②「それって東海市だといかがですか？」

グループワーク①で出された「暮らしたいまち」、「働きたいまち」について、「東海市は暮らしたいまちになっている?」、「東海市は働きたいまちになっている?」といった視点から、現在の東海市の現状について意見を交換しました。

今回の意見交換では話さきれなかったことも多いので、参加者個々人で、「東海市の良い点・悪い点探し」をしていくことが宿題として与えられました。



■先生方からの講評と次回へのお願い

最後に、講師の日本福祉大学国際福祉開発学部特任教授の千頭先生と星城大学経営学部准教授の谷口先生からコメントをいただきました。

事務局からは、他大学の学生との出会いを大切に、今回の議論をきっかけに、東海市のまちについて少しでも考えてみていただきたいという願いをして第1回目の会議が終了しました。

